

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」を理念とし、実現化に向けて、日々、積み重ねている。		ニングルでの生活は自宅で暮らすごとく自然であり、グループ内での所属欲を満たし、自分の居場所に属し、生活に馴染んでおられます。今後としては、やりたい事の抽出と実現を実践にむけ、たのしさを増やす取り組みを考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	文書による施設理念の揭示。 朝礼・会議の議案・カンファレンスなど、会議・事例検討時に共通認識として話し合っている。	○	上記1の則し、段階的にステップアップするよう継続していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	文書・口頭による説明・報告・揭示により理解を促している。		運営推進会議・家族会などを通じて話し合いの場を広くもちたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際の挨拶・声掛けのコミュニケーション。 行事への招待。 運営推進会議への声掛け。		隣近所周辺が新興住宅である為、現在の近隣の住民の方達も、新たに入居して来られる住民の方達も含め、理解・認知・信頼して頂けるよう努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公園サロン 夏祭り 自治会 などの参加。	○	地域行事に誘って頂いたり、顔見知りの方とのコミュニケーションがとれているなか、自治会長の選任など変更のなかで去年から多少の変化が伺える。更なる工夫を思案していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の行事への招待。 地域の交流行事に参加している。	○	小規模多機能を検討中であり、実現した場合より地域への浸透度は高まると考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員への評価の閲覧・協力を促す事で、参加意義・目的の理解を促している。 改善点について迅速に対応するように努めている。		前評価をもとに現サービスの向上への手がかりとしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、自由な発想・新たな発見を重視しており、社会変化にそって話し合いがすすめられている。発案時には、なるべく実現出来るように思案している。 おおむね2ヶ月に一度の頻度にも関わらず、参加者十名前後の確保がなっている。	○	更なる発展に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員派遣事業に参加。		市町村の運営推進会議での協力・参加を願いたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の参加。 朝礼での報告。 時には、対象の家族に支援している。		旧・現ともに対象の利用者様への対応経験を活かして取り組んでいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修。 施設の体質上(理念・環境)虐待起きづらいが、予防について徹底している。		今年は特に宇治市の方針である事もあり、職員意識に強く根付いていると思われるが、今後も、日常の啓発・注意事項として伝えていく。 年計画として毎年、かならず内部研修を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行うだけでなく、質疑の時間を設けるように心がけている。なお、疑問については契約者が納得のいくまで話し合いを行っている。</p>	<p>契約書の内容の確認また、更新を随時期間を設けて行なっていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員・第三者機関・運営推進会議・家族会など行っている。運営推進会議では、自由な意見を求めているため、時に苦情相談についての話し合いになる事もあった。なお、随時、相談・質問については受け付けるように努めている。</p>	<p>ニングルの成長の種として、今後も広く受け付けていきたい。些細な事でも相談できる窓口として配慮を怠らない。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>開所当初より各利用者家族宛の個々の暮らし・健康についての報告書、金銭管理についての報告、を毎月行なっている。訪問時、(キーパーソン以外も含む親族)随時、近況の説明を行ったり、電話による質問に答えている。</p>	<p>家族様によっては、お返事を下さっており続けていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>当事業所の苦情・相談窓口としての機能を確保し、契約時にその旨を説明と書面での説明(重要事項説明)を行なっている。また、外部機関への相談についても説明を行なっている。</p>	<p>個別の対象・個別のケースにあわせた相談に応じている。迅速な返答と対処に努めている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常時、受け付けている(口頭、カンファレンスノート、意見箱等)。又、会議、ミーティングなど職員の報告などで、より良いサービスへの意見や提案を啓発している。</p>	<p>職員間での遠慮などまだまだ、意見出来る職員が発言できるよう配慮していきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、勤務状況で無理が無いか、把握・声掛け希望休の受け入れなどにより、突然の職員確保にも職員が協力している。が最近の社会状況、介護費業界の雇用状況から考え今後の雇用の維持について困難な状況が予想される。</p>	<p>介護保険の限界を感じながらも努力に努めている。賃金による雇用のメリットではなく、職員のやりがい、福祉サービス業務の誇りについて理解を促して行きたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>前年以上に職員の安定がみられている。現職の職員の理解があり、職員間でのなじみの形が形成されており各職員において勤務時間帯の安定がとれている。</p>	<p>現職の職員がより良く、安心して仕事に就けるよう今後も配慮に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数・能力・役職に適した研修が受けられるよう配慮している。	会議・ミーティングなどでOJTは活用している。管理者による指摘によりトレーニングされている。ステージ分けされた段階的教育マニュアルを作成・計画し書面による評価につなげていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などの機会に仲良くなり見学に寄せていただいた。ネットワーク作りには中々至れない。京都市内グループホーム職員との研修会。	今後、検討・工夫していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	労働時間についての検討、人員の配置、の工夫。ストレス軽減及びリフレッシュを行なえる環境づくりに努めている。上記17同様に今後の不安を感じる。	仕事のやりがいを自身でみつけられる又、協力していく活動を考えていきたい。やる気の持続を目的に声掛けなど続けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	カンファレンス等で向上心等確認し、声掛けしている。確信できるだけの返答は何えない。	向上心をもてるような体制を作っていきたい(競争できる環境と評価)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回情報の聴取について書式を作成し、普段の生活の情報・ニーズの聴取につとめている。同時に本人の癖、習慣などからコミュニケーションを図り初期の信頼関係を形成し、生活の不安の際の助けである事を認識して頂く。	取れる情報をなるべく頂き職員間で共有できるデータとして頂いている。ケアプランに落とし込み職員のもとへつなぐ。今後の希望としては、固定の主治医に現在から将来のリスクについての情報収集をしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	説明の際、家族様の抱える問題、不安も含めお話頂き、今後の将来に向けてどのように付き合っていくかのサポート・説明を行い、相談に来られた方がなにかしらの答えを見つけられるように配慮している。	入所後の人間関係が希薄にならないよう対話のチャンスを作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのケースによるが、状況次第では、他のサービスについての説明を行なうこと、利用者の現在必要としているサービスは何なのかというサービス抽出への助言について話し合いを行なう時間ももうけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当日の体験・一時利用・一時帰宅・短期利用の対応を行なっている。 例:週末の家族の元への帰宅等 当日の入所のケースも当然ある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中での生活支援を目的とし、協力を促し、実際参加を主とするよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事・イベント時の家族の参加が増えており、その為に必要となる支援をおこなっている。 現在、家族会からの申し出でボランティアの申し込みがあったりと良い関係作りがなされている。		本年、クリスマス会に家族会から会の準備を申し出て頂いたり良好である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族の意向を汲み、話し合う時間と実践していただく時間作りに努めるようにしている。 クリスマス会の後、居室にて対話。		用事が無くとも来所頂きお話いただける環境づくりが実っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	更なる継続と向上に努めている。		来所前、連絡を取られていなかったご家族様とお会いになられたりされている。 今後も現在の関係を大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のペア。 各利用者の複数の関係構築に尽力している。 時に誤解が生じた時は、すぐに職員が対応中傷が中傷になる前に対応している。		基本的に社交的な利用者が多く調和が取れている。今後もこういった関係を継続して頂きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時及び退所後の支援・相談の対応をおこなうよう努めている。		利用者退所後の家族の電話・来所時の協力について説明。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を言える環境づくりに努めている。 又、現在利用の利用者様では、職員が思いを受けとめるためか、自由に発言されている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期情報をもとに毎月モニタリングを行い、日常の変化などを検討し、経過の把握に努めている。 「気づき」を大切に些細な事であっても発言する様に啓発家族からも時々変化について質問している。		以前の暮らしと現在の暮らしの中で変化に納得していただける対応を行なって行きたい(情報を把握し目的に対して正しく活用する)。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	些細な変化への報告をカンファレンスでまとめ、医師の診断で裏づけをとり介護計画に反映させている。		状況に応じてランク別または、リスクに応じてリスク別に判断し管理に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人聴き取り、気づきの意見聴取(ほぼGH全職員)、看護師の視点・Dr.の診断などを踏まえて毎月モニタリングを行う。 モニタリングを繰り返す中で本人ニーズにあった介護計画になる様に努めている。		ケアプランに沿った対応をしているのだが、なるべくチームで話し合いが出来るように配慮している。 将来的には、医師の総合的な視点を加えた上でのアセスメント(特に認知症の進行が定期的に意識できるようにMRIによる変化の確認)を使いたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化時に迅速に見直しを行い、改善に努めている。		利用者本位の意識で対応すれば自然と改善しなければならないものになる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とファイルの作成により対応。		ケアプランの内容に沿った記録を重視している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	改善・向上に努めているが、当事業所だからこそ出来る事を考え意識している。		グループホームだから出来るニングルの森だからできるという事を意識して支援にあたる(在宅で一人では出来ない事がニングルでは実現している)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	訓練・教育の参加、必要に応じて地域資源の受け入れを行っている。		事業所側も地域資源として、地域に協力していけるよう考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業者も含め、地域に協力できるよう又、向上できるよう指針を検討中である。		人の生涯における終末期に対する支援だけでなく、要介護に至るさまざまな要因を意識し、どのステージにおいてもつながりを意識し協力、模索・検討できるよう思案していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの協力・行事参加に努めるよう努力している。		必要に応じて行っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の自由は尊重し、今までのかかりつけ医を大切にしている。また、当施設の主治医についてもご理解頂けるよう、間に入り説明及び協力を努めている。		現在も努力してきているが見落としの無いように健康管理に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族にて自由に診療に行っていたが、必要に応じて専門医の受診を行っている。	○	現在、認知症に特化した専門医の受診を行うようしているが、今後、家族に支援体制を理解して頂く。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、当施設看護職と主治医・及び看護師との話し合いを密に行うよう努めている。		医療と介護の繋がりを大切に今後、さらなる協力を努めていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に関しての受け入れ体制の報告・情報交換。家族への対応についての相談援助に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて看取りについて指針・体制を作成している。		今後、ターミナルについて意識し、対応について取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについて看取りについて指針・体制を作成している。但し、グループホームでの可能性の見極めについても意識している。		本人・家族・医療・介護とチームが迅速に対応できる必要性があり、そこには共通理解と柔軟な対応が必要である。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージについては、退所時及び退所後の支援・相談の対応を行うよう努めている。但し、利用者の意向を尊重し、出すぎる対応は考えていない、転居先と情報交換に努めている。		利用者退所後の家族の電話や来園時の協力についての説明。 利用者外へも相談者への相談は随時行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>グループホームでの生活でのプライバシーの保護が過剰にならないよう、利用者一人ひとりの考え方を理解するよう努め、信頼関係をつなぐように努めている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>常に変化を続ける認知症の利用者の対応を考え、本人の希望を日常から引き出すよう努め、カンファレンスなどで話合われている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>利用者の納得している店へお連れしている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>役割を通じて利用者間のコミュニケーションの中で共生をより意識して頂けるように努力していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>嗜好品の購入については、職員、家族、共に協力して購入している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン表の作成やトイレ誘導の対応。また、必要に応じて、医師からの調薬を受けられている利用者もおられる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日でみなさんが入れない時に順番に入って頂いている。但し、希望に応じて柔軟に対応している。		個別入浴を徹底している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間その日よっての体調を配慮し、休息できるように心がけている。就寝時は時間を押し付けず、適当な時間まで、自身の生活パターンに合わせている。		生活習慣・生活バランスの逆転の無いように普段から就寝、起床については配慮を行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の趣味、嗜好に合わせて、支援を行うよう努めている。	○	できなくなるにつれての支援・配慮を考えていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方については、自身で所持して頂き、困難な方においても買い物でお財布から自分で清算して頂くように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、喫茶、散歩、など外出については職員・家族と共に出かけさせて頂いている。		計画としての外出もあり、天候により突発的に外出したり対応している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から会話をキッカケに聴取しており、出かけられるときの候補、又、家族対応については、自由に外出対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、郵便局へ行く場合もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は自由で対応している。また、来園者に対する訪問は自由である事も説明している。 ※利用者の関係者である事が前提であり、デリケートなケースについては相談にて対応している。		外泊・ホーム泊についても可。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底している。拘束が仮に必要となった場合、カンファレンスにて必要の有無を検討の後、家族と相談し、記録として残す。		認識不足も研修を行っている為、無く正しく対応している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時世の状態から在宅中であっても、危機管理の側面から鍵の施錠は見極めて行っている。		和様の外観から視覚的に閉鎖感は少ないと思われる。居住中の利用者についても閉塞感は、ほぼ無いと思われる。訪問者・利用者からの苦情は聞かれていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	状況把握、空間把握について、指導を行っている。		常に安全面の管理については努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の中での危険物は多々あり、片付ける。出しておく物は危険の無いように整理し工夫している。		危険物の近くは職員に意識させ、常時、声掛けを行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、マニュアルにより事故防止策をこうじている。		持てる知識と経験を活かし取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、マニュアルにより事故防止策を講じている。 連絡網(緊急連絡先)の準備と対策マニュアルの作成。	○	訓練の継続及び経験を持った職員などへの雇用の安定など。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練(避難訓練・初期消火訓練)を利用者参加で行っている。		防災用品の見直しなど随時行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、介護計画説明等、普段から説明を行うよう努めている。		家族との話し合いを心がけている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のコミュニケーションを行っており、声掛けに努めている。 巡回を徹底している。 引継ぎ、日誌にて状況の変化について報告を職員間で行い、変化について看護職員と相談。必要に応じて医師への助言を受けつつ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録物、服薬・塗布薬の個別管理と表作成により対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	記録物、服薬・塗布薬の個別管理と表作成により対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	MC・NC・歯科受診により対応している。 必要に応じて毎食後のケアも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>常に自由に摂取できる状態にある。 チェック表の作成・個別対応についての把握により対応している。</p>	<p>BTチェック表の作成。声掛けで確認に努めている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>清潔の保持。 感染予防マニュアルの作成。及びポスター・掲示物の掲示。</p>	<p>予防接種の実施。 消毒の徹底(利用者の不満なし)</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材管理(購入と廃棄)に努めている。ポスター・掲示物の掲示・賞味期限切れの使用を予防するため、物によっては、使用日を記入し管理に努めている。</p>	<p>勤勉に買い物に出かけている。 新鮮な物を提供できている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りの整備。また園芸を行っている。 誘導時は手引き歩行にて利用者一人ずつ誘導するよう努めている。</p>	<p>玄関をでた所で腰掛け出来るように工夫している。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>庭を見ながらお茶を飲んだりとも趣も配慮して生活できる。 良い匂いや清潔な環境整備に努めている。</p>	<p>毎週、花が届くレクをおこなっており、季節の花がいつもある。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中、皆さん一緒におられる事が多いが、縁側の利用も自由であり、居室により自身の生活の確保に努めている。</p>	<p>皆さんが楽しく過ごせるリビングをめざしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力、利用者及び家族に委ねられるよう努めている。	○	本人の身体能力などにあわせ1F2Fの決定・レイアウト又は部屋変え等行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開け閉め、空調調節に努め、環境整備をするよう努めている。		換気・空調については体調を優先し、温度や湿度に配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。及びスノコ等による高さの調節等に努めている。		階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解できる状況・環境づくりに努め工夫している。	○	日々、変化しなおかつ引き出せる情報も予測できない為、成長の可能性を否定せず、日々、模索していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣の公園での散歩。駐車場での園芸を行っている。	○	その他、模索中。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が日々、笑顔の時間が長く個々の思いを介護者が考慮し、日々の介護に努めている。
 家もアットホームな和様建築であり、皆おちついてくらししている。独居で暮らされているより幸せに暮らして頂いていると思っています。
 京都で一番と自負したい所です。